

【】 鎌倉時代

【】 鎌倉幕府の成立

[要点：鎌倉幕府の成立]

源頼朝は、1180年に挙兵した後、鎌倉(神奈川県)を本拠地にして指揮をとった。鎌倉は東・北・西の三方を山で囲まれ、南は相模湾に面しているため守りやすい土地であった。

平氏との戦いで、源頼朝は鎌倉にいて、弟の源義経らを派遣した。義経は一ノ谷の戦い、屋島の戦いで平氏を破り、

1185年、壇ノ浦(山口県)の戦いで平氏を滅亡させた。(平家の人々は御(1185)難の壇ノ浦)

源頼朝の巨大化を恐れた後白河上皇は、頼朝と義経が不仲になったことにつけこみ、義経の願いを受けて頼朝追討を命じた。これに対して頼朝は軍を京都に送って後白河上皇にせまり、義経をとらえることを名目に、

守護と地頭を任命する権利を認めさせた。守護は国ごとに置かれ、国の中の軍事・警察や御家人の統率を行った。地頭は荘園や公領の管理、年貢の取りたて、警察にあたった。こうして頼朝は、本格的な武士の政権である鎌倉幕府を開いた。これ以降を鎌倉時代という。

義経は平泉を根拠地にしていた奥州藤原氏をたよって逃れた。頼朝は義経をかくまったことを理由に、奥州藤原氏を攻めほろぼし、独立性の強かった東北地方も支配下においた。

1192年、源頼朝は朝廷より征夷大將軍に任じられた。(いい国(1192)めざす)。

※出題頻度「源頼朝○」「鎌倉(地図)○」「源義経○」「壇ノ浦(地図)○」「守護◎」「地頭◎」

「鎌倉幕府○」「鎌倉時代△」「奥州藤原氏△」「征夷大將軍○」



(源頼朝)



壇ノ浦



[問題1]

次の文章中の①～⑨に適語を入れよ。

(①)は、1180年に挙兵した後、(②)(神奈川県)を本拠地にして指揮をとった。(②)は東・北・西の三方を山で囲まれ、南は相模湾に面しているため守りやすい土地であった。平氏との戦いで、(①)は(②)にいて、弟の(③)らを派遣した。(③)は一ノ谷の戦い、屋島の戦いで平氏を破り、1185年、(④)(山口県)の戦いで平氏を滅亡させた。

(①)の巨大化を恐れた後白河上皇は、(①)と(③)が不仲になったことにつけこみ、(③)の願いを受けて(①)追討を命じた。これに対して(①)は軍を京都に送って後白河上皇にせまり、(③)をとらえることを名目に、(⑤)と(⑥)を任命する権利を認めさせた。(⑤)は国ごとに置かれ、国の中の軍事・警察や御家人の統率を行った。(⑥)は荘園や公領の管理、年貢の取りたて、警察にあたった。こうして(①)は、本格的な武士の政権である(⑦)を開いた。これ以降を鎌倉時代という。(③)は平泉を根拠地にしていた(⑧)をたよって逃れた。(①)は(③)をかくまったことを理由に、(⑧)氏を攻めほろぼし、独立性の強かった東北地方も支配下においた。1192年、(①)は朝廷より(⑨)に任じられた。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨

[問題2]

次の各問いに答えよ。

- (1) 右の肖像画に描かれている人物はだれか。
 (2) (1)が本拠地にしたのはどこか。①地名を答えよ。②その場所を地図中の A～E から選べ。③①を本拠地に定めた理由を「山と海」という語句を使って簡潔に説明せよ。



- (3) ①源氏の総大将として平氏を滅ぼしたのは誰か。②平氏を滅ぼした場所はどこか。③②を地図中の A～E から選べ。



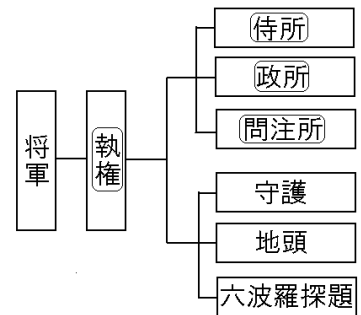
- (4) 1185 年, (1)の人物は軍を京都に送って後白河上皇にせまり, 2 種類の役職を(1)が任命する権利を認めさせた。このうち, ①御家人の統率や殺人などの重い犯罪の取り締まりにあたる役職は何か。②また, ①はどのような場所に置かれたか。③年貢の取り立てなどにあたる役職は何か。④また, ③はどのような場所に置かれたか。
 (5) (4)によって成立した幕府を何というか。
 (6) 1185 年から, 1333 年に(5)の幕府が滅亡するまでの約 150 年を何時代というか。
 (7) (1)は(3)①をかくまったことを口実に, 東北地方の何氏を攻め滅ぼしたか。
 (8) 1192 年, (1)は朝廷より何という役職に任命されたか。

(1)
(2)①
②
③
(3)①
②
③
(4)①
②
③
④
(5)
(6)
(7)
(8)

[要点：御恩と奉公・幕府のしくみ]

将軍と御家人(家来となった武士)は御恩と奉公の関係で結ばれていた。御恩の中で一番重要なのは、御家人の土地支配を保障したことであった。源頼朝は御家人に対し、おもに地頭に任命することによって、先祖伝来の領地の支配を保証した。このような御恩に対し、御家人は、平時には、京都や鎌倉の警護にあたる義務を負い、戦時には、命をかけて鎌倉殿(源頼朝)のために戦った。これが、奉公である。さらに、命をかけて戦って、てがらをたてたときには、没収した敵の領地を恩賞として与えられたが、これも御恩の1つである。

鎌倉幕府の組織は、御家人をまとめ軍事をあつかう侍所、一般政務や財政をあつかう政所、裁判を行う問注所からなっていた。また、国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を置いた。執権は将軍を助けて政治をおこなう最高職であるが、これが設けられたのは源頼朝の死後で、北条氏が独占した。また、六波羅探題は、1221年に起こった承久の乱の後に、朝廷を監視するために設置された。



※出題頻度「御恩◎」「奉公◎」「御家人◎」「執権◎」「侍所○」「政所○」「問注所○」

[問題 3]

次の文章中の①～⑧に適語を入れよ。

将軍と(①)(家来となった武士)は(②)と(③)の関係で結ばれていた。(②)の中で一番重要なのは、(①)の土地支配を保障したことであった。源頼朝は(①)に対し、おもに(④)に任命することによって、先祖伝来の領地の支配を保証した。このような(②)に対し、(①)は、平時には、京都や鎌倉の警護にあたる義務を負い、戦時には、命をかけて鎌倉殿(源頼朝)のために戦った。これが、(③)である。さらに、命をかけて戦って、てがらをたてたときには、没収した敵の領地を恩賞として与えられたが、これも(②)の1つである。

鎌倉幕府の組織は、御家人をまとめ軍事をあつかう(⑤)所、一般政務や財政をあつかう(⑥)所、裁判を行う(⑦)所からなっていた。また、国ごとに守護を、荘園や公領ごとに(④)を置いた。(⑧)は将軍を助けて政治をおこなう最高職であるが、これが設けられたのは源頼朝の死後で、北条氏が独占した。また、六波羅探題は、1221年に起こった承久の乱の後に、朝廷を監視するために設置された。

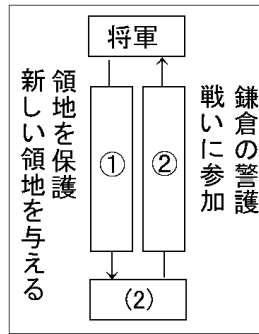
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

[問題 4]

次の文を読んで、後の各問いに答えよ。

鎌倉幕府の初代将軍の()は、彼と主従関係を結んだ武士を統率し、武士による政治のしくみを整えていった。

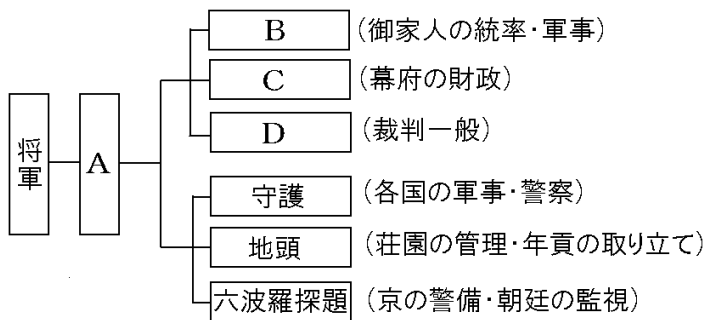
- (1) 文中の()にあてはまる人名を答えよ。
- (2) 下線部について、このような武士は何と呼ばれたか。
- (3) 右図について、①、②にあてはまる語句を答えよ。



(1)
(2)
(3)①
②

[問題 5]

次の鎌倉幕府のしくみで、A~D にあてはまる役職名を下の [] からそれぞれ選べ。



A
B
C
D

[問注所 執権 政所 侍所]

【】 執権政治・承久の乱・御成敗式目

[要点：執権政治・承久の乱]

源頼朝みなもとのよりともの死後、幕府の実権は北条時政ほうじょうときまさ(頼朝の妻である北条政子の父ほうじょうまさこ)がにぎった。以後、北条氏は将軍の力を弱めて執権しっけんの地位を独占どくせんして幕府の実権をにぎった。これを執権政治しっけんせいじという。第3代将軍の源実朝みなもとのさねともが殺害される事件が起きると、幕府の動揺どうようを好機こうきとみた後鳥羽上皇ごとばじょうこうは、1221年に、第2代執権の北条義時ほうじょうよしとき追討おいついの命令を出し、幕府を倒そうと兵をあげた。これが承久じょうきゅうの乱である。(人に二色(1221)承久の乱)

朝廷方と戦えば「朝敵ちようてき」となるのではないかと動揺どうようした御家人を前に、源頼朝みなもとのよりともの未亡人みぼうじんである北条政子きたじょうまさこが、「みなもの者、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵(平氏)をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海よりも深いものでした。…名誉を大事にする者は、京都(朝廷)に向かって出陣し、逆臣ぎやくしんをうち取り幕府を守りなさい。」と説得した。

幕府は大軍を率いて上皇方じょうこうがたを破り、後鳥羽上皇は隠岐おき(島根県)に流された。乱後、幕府は、朝廷を監視するために、京都に六波羅探題ろくはらたんたいという役所を置いた。また、上皇方についた貴族や西日本の武士の領地を取り上げ、地頭に東国の御家人を任命した(恩賞として土地を与えた)。これによって、幕府の支配力は西日本にも広がっていちだんと強まった。



※出題頻度「北条氏○」「執権◎」「後鳥羽上皇◎」「承久の乱◎」「北条政子(の説得)○」

「隠岐△」「六波羅探題◎」「朝廷を監視するため◎」「幕府の支配が西日本にも広がった○」

[問題6]

次の文章中の①～⑪に適語を入れよ(または、適語を選べ)。

源頼朝の死後、幕府の実権は(①)時政(頼朝の妻である(①)政子の父)がにぎった。以後、(①)氏は将軍の力を弱めて(②)の地位を独占して幕府の実権をにぎった。これを(②)政治という。第3代将軍の源実朝が殺害される事件が起きると、幕府の動揺を好機とみた(③)上皇は、1221年に、第2代執権の(①)義時追討の命令を出し、幕府を倒そうと兵をあげた。これが(④)の乱である。

朝廷方と戦えば「朝敵」となるのではないかと動揺した御家人を前に、(⑤)の未亡人である(⑥)が、「みなの方、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。(⑤)公が朝廷の敵((⑦)氏)をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海よりも深いものでした。…名誉を大事にする者は、京都(朝廷)に向かって出陣し、逆臣をうち取り幕府を守りなさい。」と説得した。

幕府は大軍を率いて上皇方を破り、(③)上皇は(⑧)(島根県)に流された。乱後、幕府は、(⑨)を監視するために、京都に(⑩)という役所を置いた。また、上皇方についての貴族や西日本の武士の領地を取り上げ、地頭に東国の御家人を任命した(恩賞として土地を与えた)。これによって、幕府の支配力は⑪(東日本／西日本)にも広がっていちだんと強まった。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪

【問題7】

次の各問いに答えよ。

- (1) 源頼朝の死後、幕府の実権を握ったのは、①何氏か。②また、その政治を何というか。
- (2) 「みなの方、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が 朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は…(中略)。名誉を大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣を討ち取り幕府を守りなさい。」この言葉は、①何という乱のときに、②だれが御家人に訴えたものか。
- (3) (2)の乱の首謀者である上皇の名前を答えよ。
- (4) (2)の乱のときの幕府の執権は誰か。
- (5) (2)の乱の後、(3)の上皇は現在の①何県の②どこに流されたか。
- (6) (2)の乱の後、①京都に新たにおかれた役所は何か。②また、その目的は何か。「朝廷」という語句を使って簡単に説明せよ。
- (7) (2)の乱の後に鎌倉幕府の支配力はどのように変化したか。「東国」「西国」という語句を使って説明せよ。

(1)①
②
(2)①
②
(3)
(4)
(5)①
②
(6)①
②
(7)

【要点：地頭の荘園侵略・御成敗式目】

承久じょうきゆうの乱の後、地頭じとうの勢力が強くなり、荘園しょうえんへの支配権を拡大していったため、荘園領主りょうしゅとの間で争いがさらに激しくなった。この争いは幕府によって裁かれ、土地の半分が地頭にあたえられる下地中分したじちゅうぶんが行われたりした。農民は荘園領主と地頭の二重支配に苦しんだ。

公平な裁判制度を確立する目的もあって、1232年、執権の北条泰時ほうじょうやすときは、裁判の基準として御成敗式目ごせいばいしきもく(貞永式目じょうえい)をつくった。(御成敗式目、一文(ひとふみ)に(1232))

※出題頻度「下地中分△」「北条泰時◎」「御成敗式目◎」

[問題 8]

次の文章中の①～③に適語を入れよ。

承久の乱の後、地頭の勢力が強くなり荘園への支配権を拡大していったため、荘園領主との間で争いがさらに激しくなった。この争いは幕府によって裁かれ、土地の半分が地頭にあたえられる(①)が行われたりした。農民は荘園領主と地頭の二重支配に苦しんだ。

公平な裁判制度を確立する目的もあって、1232年、執権の(②)は、裁判の基準として(③)をつくった。

①
②
③

[問題 9]

次の各問いに答えよ。

- (1) 地頭と領主(領家)との間には、争いがたびたび起こった。この争いは幕府によって裁かれ、右の絵図のように土地の半分が地頭にあたえられたりした。これを何というか。



- (2) 1232年、領地や裁判などについての武士のならわしをまとめた法律が作られたが、何という法律か。
- (3) (2)を定めた執権は誰か。

(1)
(2)
(3)

[要点：武士の生活]

荘園しょうえんや公領こうりょうに館を構えた武士は、つねに馬や弓矢の武芸によって心身をきたえていた。「弓馬の道」きゅうば、「武士(もののふ)の道」などと呼ばれる、名誉を重んじ、恥はじをきらう態度や武士らしい心構えが育っていった。武士の家は、一族の長である惣領そうりょうが中心となって子や兄弟などをまとめ、団結していた。領地は分割相続ぶんかつそうぞくで、女子にもあたえられたので、女性の地頭も多くいた。

※出題頻度「弓馬の道(武士の道)△」「惣領△」「分割相続△」

[問題 10]

次の文章中の①～③に適語を入れよ。

荘園や公領に館を構えた武士は、つねに馬や弓矢の武芸によって心身をきたえていた。「(①)」や「武士(もののふ)の道」などと呼ばれる、名誉を重んじ、恥をきらう態度や武士らしい心構えが育っていった。武士の家は、一族の長である(②)が中心となって子や兄弟などをまとめ、団結していた。領地は(③)相続で、女子にもあたえられたので、女性の地頭も多くいた。

①
②
③

[要点：農業などの発達]

鎌倉時代、牛や馬の利用、鉄製の農具の普及、草や木を焼いた灰を肥料として使うことなどで農業生産が向上した。また、^{おもてさく}表作として米を作り、^{うらさく}裏作として麦を作る^{にもうさく}二毛作も行われるようになった。農業生産の向上は、農業以外にたずさわる人々を生み出す^{よゆう}余裕を社会に与え、農村には、^{かじや}農具を作る鍛冶屋や^{そめもの}染物をあつかう^{こんや}紺屋などの手工業者が住みついた。寺社の門前や交通の便利なところでは、^{ていきいち}定期市が開かれるようになった。

※出題頻度「二毛作○」「定期市○」

[問題 11]

次の文章中の①、②に適語を入れよ。

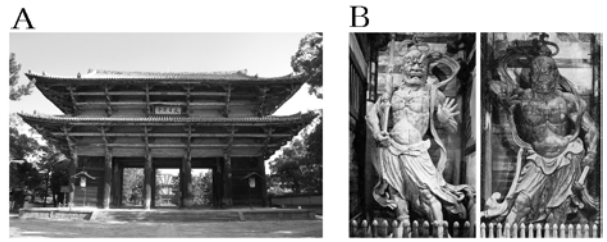
鎌倉時代、牛や馬の利用、鉄製の農具の普及、草や木を焼いた灰を肥料として使うことなどで農業生産が向上した。また、表作として米を作り、裏作として麦を作る(①)も行われるようになった。農業生産の向上は、農業以外にたずさわる人々を生み出す余裕を社会に与え、農村には、農具を作る鍛冶屋や染物をあつかう紺屋などの手工業者が住みついた。寺社の門前や交通の便利なところでは、(②)が開かれるようになった。

①
②

【】鎌倉時代の文化と宗教

[要点：東大寺南大門・金剛力士像]

鎌倉時代には、武士がはなばなしく活躍し、民衆も力をつけ、貴族の伝統文化のうえに、武士や民衆の、親しみがあり、力強い感じを与える文化が発達した。この時代の代表的な彫刻は右図Bの金剛力士像で、運慶の作である。写実的で力強いのが特徴である。金剛力士像が置かれている右図Aの東大寺南大門(現在の奈良市にある)は鎌倉時代に再建された。



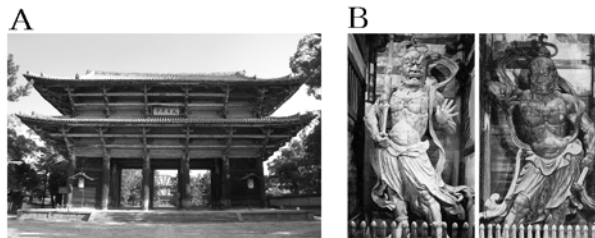
※出題頻度「親しみがあり、力強い感じを与える文化○」「金剛力士像◎」「運慶○」「東大寺南大門○」

【問題12】

次の文章中の①～④に適語を入れよ。

鎌倉時代には、武士がはなばなしく活躍し、民衆も力をつけ、貴族の伝統文化のうえに、武士や民衆の、親しみがあり、(①)感じを与える文化が発達した。この時代の代表的な彫刻は右図 B の(②)像で、(③)の作である。写実的で(①)のが特徴である。(②)像が置かれている図 A の(④)(現在の奈良市にある)は鎌倉時代に再建された。

①
②
③
④



【問題13】

次の各問いに答えよ。

- (1) 右の資料の像を何というか。
- (2) (1)の像の作者は誰か。
- (3) (1)の像が置かれている寺の門を何というか。
- (4) 鎌倉時代の文化の特色を「貴族」「武士や民衆」「力強い」の語句を使って説明せよ。



(1)
(2)
(3)
(4)

[要点：文学]

「祇園精舎の鐘の声，諸行無常の響きあり。…」で始まるのは平家物語である。平氏の繁栄から没落までをえがいた平家物語は，琵琶法師によって広められた。和歌集としては，後鳥羽上皇の命令で藤原定家らが編集した新古今和歌集がある。随筆としては，兼好法師の徒然草(「つれづれなるままに，日ぐらし硯にむかいて…」)，鴨長明の方丈記(「ゆく河の流れは絶えずして，しかももとの水にあらず。…」)がある。

※出題頻度「平家物語◎」「琵琶法師○」「新古今和歌集◎」「藤原定家△」

「兼好法師・徒然草○」「鴨長明・方丈記△」

[問題 14]

次の文章中の①～⑥に適語を入れよ。

「祇園精舎の鐘の声，諸行無常の響きあり。…」で始まるのは(①)物語である。平氏の繁栄から没落までをえがいた(①)物語は，(②)法師によって広められた。和歌集としては，後鳥羽上皇の命令で藤原定家らが編集した(③)和歌集がある。随筆としては，(④)法師の(⑤)(「つれづれなるままに，日ぐらし硯にむかいて…」)，鴨長明の(⑥)(「ゆく河の流れは絶えずして，しかももとの水にあらず。…」)がある。

①
②
③
④
⑤
⑥

[問題 15]

次の各問いに答えよ。

- (1) 平氏の繁栄と滅亡を情感豊かにえがいた軍記物は何か。
- (2) (1)は，字の読めない武士や農民にも広められたが，誰によって広められたか。
- (3) ①鎌倉時代の代表的な和歌集は何か。②また，その編者は誰か。
- (4) 徒然草の作者は誰か。
- (5) 方丈記の作者は誰か。

(1)
(2)
(3)①
②
(4)
(5)

[要点：鎌倉仏教]

鎌倉仏教の各宗派は、分かりやすく、実行しやすかったので、民衆や武士の間に広がっていた。鎌倉仏教の第一の系統は、浄土信仰の流れをくむ念仏(南無阿弥陀仏)の系統である。

法然は浄土宗を開き、「南無阿弥陀仏」と唱えさえすれば極楽浄土に往生できると説いた。法然の弟子の親鸞は浄土真宗を開き、「善人ですら往生できる、まして悪人ならなおさらのことだ」という悪人正機説を唱えた。一遍は時宗を開き、布教の方法として右図のような踊念仏を取り入れ、全国を歩きまわって布教した。



(踊念仏)

鎌倉仏教の第二の系統は、禅宗である。栄西は宋にわたって禅宗を学び、臨済宗を開いた。

座禅というきびしい修行を通して自分でさとりを開くことを重視したが、これは武士の気風によく合ったため、武士の間に広がり、幕府の保護を受けた。道元は、ただひたすら座禅に徹せよと説き、山中にこもって曹洞宗を開いた。

第三の系統は、題目(南無妙法蓮華經)の系統である。日蓮は日蓮宗(法華宗)を開き、法華經こそ仏教の根本であると説き、他宗をきびしく批判した。

※出題頻度「分かりやすく、実行しやすかった○」「浄土宗：法然○」「浄土真宗：親鸞○」「時宗：一遍○」「禅宗○」「臨済宗：栄西○」「曹洞宗：道元○」「座禅○」「日蓮宗：日蓮○」

[問題16]

次の文章中の①～⑬に適語を入れよ。

鎌倉仏教の各宗派は、(①)やすく、実行しやすかったの
で、民衆や武士の間に広がっていった。鎌倉仏教の第一の系統
は、浄土信仰の流れをくむ念仏(南無阿弥陀仏)の系統である。

(②)は(③)宗を開き、「南無阿弥陀仏」と唱えさえすれ
ば極楽浄土に往生できると説いた。(②)の弟子の(④)は

(⑤)宗を開き、「善人ですら往生できる、まして悪人ならな
おさらのことだ」という悪人正機説を唱えた。(⑥)は

(⑦)宗を開き、布教の方法として右
図のような(⑧)を取り入れ、全国を
歩きまわって布教した。



鎌倉仏教の第二の系統は、(⑨)宗
である。(⑩)は宋にわたって(⑨)宗を学び、臨済宗を開いた。

(⑪)というきびしい修行を通して自分でさとりを開くこと
を重視したが、これは武士の気風によく合ったため、武士の間
に広がり、幕府の保護を受けた。(⑫)は、ただひたすら座
禅に徹せよと説き、山中にこもって曹洞宗を開いた。

第三の系統は、題目(南無妙法蓮華經)の系統である。(⑬)
は(⑬)宗(法華宗)を開き、法華經こそ仏教の根本であると説き、
他宗をきびしく批判した。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬

[問題17]

次の各問いに答えよ。

- (1) ①浄土信仰を発展させ、「阿弥陀仏の救いを信じて念仏せよ」と説いたのは誰か。②また、何という宗派を開いたか。
- (2) ①「阿弥陀仏の救いを信じる心さえあればよく、自分の罪を自覚した悪人こそ救われる」と説いたのは誰か。②また、何という宗派を開いたか。
- (3) ①各地をまわって踊念仏を広めたのは誰か。②また、何という宗派を開いたか。
- (4) ①法華経こそ仏教の根本であるとしたのは誰か。②また、何という宗派を開いたか。
- (5) 座禅により自力でさとりを開くことを重視した曹洞宗と臨済宗をあわせて何宗というか。
- (6) (5)のうち、臨済宗の開祖は(①)で、曹洞宗の開祖は(②)である。
- (7) 以上のように、鎌倉時代に新しい仏教がおこってきたが、それらの教えが急速に広まっていった理由を簡単に説明せよ。

(1)①
②
(2)①
②
(3)①
②
(4)①
②
(5)
(6)①
②
(7)

【】モンゴルの襲来と鎌倉幕府の滅亡

[要点：モンゴル帝国・元]

13世紀の初め、チンギス・ハンは、モンゴルの部族を統一して国を建設した。その子や孫は、その国を広大なユーラシア大陸の東西にまたがるモンゴル帝国に成長させた。

5代目のフビライ・ハンは、モンゴル帝国のうち、中国・モンゴルなどの地域を本国として、1271年に首都を大都(現在の北京)におき、国号を元と定めた。

さらに、1279年には宋(南宋)をほろぼし中国全土を支配下に置いた。イタリアの商人マルコ・ポーロはフビライに17年間仕え、帰国後、その体験をもとに「東方見聞録」を著した。その中で日本のことを「黄金の国ジパング」として紹介した。



マルコ・ポーロの行路

※出題頻度「チンギス・ハン○」「モンゴル帝国○」「フビライ・ハン◎」「元○」「大都△」「宋(南宋)△」「マルコ・ポーロ△」「東方見聞録△」「黄金の国ジパング△」

[問題18]

次の文章中の①～⑧に適語を入れよ。

13世紀の初め、(①)・ハンは、モンゴルの部族を統一して国を建設した。その子や孫は、その国を広大なユーラシア大陸の東西にまたがる(②)帝国に成長させた。

5代目の(③)・ハンは、(②)帝国のうち、中国・モンゴルなどの地域を本国として、1271年に首都を(④)(現在の北京)におき、国号を(⑤)と定めた。さらに、1279年には(⑥)をほろぼし中国全土を支配下に置いた。イタリアの商人(⑦)は(③)に17年間仕え、帰国後、その体験をもとに「東方見聞録」を著した。その中で日本のことを「(⑧)の国ジパング」として紹介した。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

[問題19]

次の各問いに答えよ。

- (1) 13世紀のはじめ、モンゴル高原で遊牧生活をしていたモンゴルの部族を統一して国を建設したのは誰か。
- (2) (1)の孫にあたる人物で、国号を元と改めたのは誰か。
- (3) 元によって滅ぼされた中国の王朝は何か。
- (4) ①元的首都は何という都市であったか。②また、それは現在は何という都市か。
- (5) ①元に旅行し、旅行記の中でわが国を「ジパング」とよび、黄金の島と紹介し、ヨーロッパの人々のアジアへの関心を高めた人物はだれか。②また、その著作は何か。

(1)
(2)
(3)
(4)①
②
(5)①
②

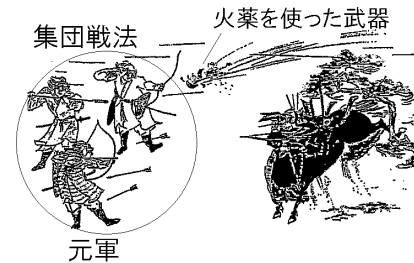
[要点：元寇]

元のフビライ・ハンは朝鮮半島の高麗を征服した後、日本も従うようにと使者を送ってきたが、執権の北条時宗はこれを拒絶した。

1274年、元軍3万が九州の博多湾に上陸し、集団戦法と火薬を使った武器によって幕府軍をなやましたすえ、内紛や暴風雨のために引き上げた(文永の役)。



さらに、元は宋をほろぼすと、1281年、約14万の大軍で襲来した。幕府軍は、博多湾沿いに築いた石の防壁を利用して戦った。元の大軍は上陸できないまま、暴風雨に襲われて大損害を受けて退却した(弘安の役)。(一風灰に(1281)に弘安の役)



この2度にわたる元の襲来をあわせて元寇という。

※出題頻度「フビライ・ハン◎」「高麗○」「北条時宗◎」「元寇◎」「文永の役△」「博多湾△」「集団戦法◎」「火薬を使った武器◎」「弘安の役△」

[問題20]

次の文章中の①～⑨に適語を入れよ。

元の(①)・ハンは朝鮮半島の(②)を征服した後、日本も従うようにと使者を送ってきたが、執権の(③)はこれを拒絶した。

1274年、元軍3万が九州の(④)湾に上陸し、(⑤)戦法と(⑥)を使った武器によって幕府軍をなやましたすえ、内紛や暴風雨のために引き上げた((⑦)の役)。

さらに、元は宋をほろぼすと、1281年、約14万の大軍で襲来した。幕府軍は、(④)湾沿いに築いた石の防壁を利用して戦った。元の大軍は上陸できないまま、暴風雨に襲われて大損害を受けて退却した((⑧)の役)。この2度にわたる元の襲来をあわせて(⑨)という。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨

[問題21]

右図は、中国のある王朝の軍が日本に来襲したときの様子を表している。次の各問いに答えよ。



- (1) このときの中国の王朝は何か。
- (2) このときの中国の皇帝は誰か。
- (3) このときの幕府の執権は誰か。
- (4) (1)が日本に攻めてきたのは、朝鮮半島のある国を屈服させた後であった。何という国か。
- (5) (1)の第1回目の来襲を(①)といい、第2回目の来襲を(②)という。また、この2回の来襲を合わせて(③)という。
- (6) (1)の第1回目の来襲の後で、幕府が九州の御家人に命じて博多湾の沿岸に築かせたものは何か。
- (7) (1)の軍が日本軍を苦しめた理由について、図を参考に、簡潔に説明せよ。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)①
②
③
(6)
(7)

[要点：鎌倉幕府の滅亡]

元寇では戦いに勝っても土地が増えたわけではなかったため、幕府は御家人に恩賞として土地を与えることができなかった。このため、御家人は幕府に不満をいだくようになった。

また、領地の分割相続によって生活が苦しくなり、高利貸しからの借金が返せず土地を失う者が出てきた。幕府は1297年に徳政令(永仁の徳政令)を出して御家人の窮乏を救おうとしたが、うまくいかなかった。

一方、商業の発達によって経済力をたくわえた御家人ではないあらたな武士が成長していった。彼らの中には、荘園の年貢を奪うなど、幕府の秩序を乱す者もおり、悪党とよばれた。こうした中、幕府のおとろえをみた後醍醐天皇は、幕府をたおして天皇中心の政治を取りもどそうと考え、楠木正成など、悪党とよばれた武士たちなどによびかけて兵をあげた。これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせた。しかし、有力な御家人の足利尊氏は、幕府にそむいて、1333年、京都の六波羅探題を攻め落とし、新田義貞も鎌倉に攻め込んで、鎌倉幕府をほろぼした。(一味さんざん(1333)鎌倉滅ぶ)

※出題頻度「幕府が恩賞として土地を与えることができなかったから○」「分割相続△」「御家人を救済するため○」「徳政令(永仁の徳政令)◎」「悪党○」「後醍醐天皇○」「楠木正成△」「足利尊氏○」

[問題 22]

次の文章中の①～⑥に適語を入れよ。

元寇では戦いに勝っても(①)が増えたわけではなかったため、幕府は御家人に恩賞として(①)を与えることができなかった。このため、御家人は幕府に不満をいだくようになった。また、領地の(②)相続によって生活が苦しくなり、高利貸しからの借金が返せず土地を失う者が出てきた。幕府は1297年に(③)令を出して御家人の窮乏を救おうとしたが、うまくいかなかった。

一方、商業の発達によって経済力をたくわえた御家人ではないあらたな武士が成長していった。彼らの中には、荘園の年貢を奪うなど、幕府の秩序を乱す者もおり、(④)とよばれた。こうした中、幕府のおとろえをみた(⑤)天皇は、幕府をたおして天皇中心の政治を取りもどそうと考え、楠木正成など、(④)とよばれた武士たちなどによびかけて兵をあげた。これに対して幕府は、大軍を京都にのぼらせた。しかし、有力な御家人の(⑥)は、幕府にそむいて、1333年、京都の六波羅探題を攻め落とし、新田義貞も鎌倉に攻め込んで、鎌倉幕府をほろぼした。

①
②
③
④
⑤
⑥

[問題 23]

次の各問いに答えよ。

- (1) 元寇の後、鎌倉幕府と御家人の関係はどうなっていったか。
「恩賞」「土地」「不満」のことばをすべて使って説明せよ。
- (2) 生活が苦しくなった御家人を救おうとして、1297年に幕府が定めた法令を何というか。
- (3) この当時、御家人の生活が苦しくなった原因を「相続」の語句を用いて説明せよ。
- (4) 近畿地方中心に鎌倉幕府に従わない武士が成長し、年貢をうばう武士も出てきた。このような武士は何と呼ばれていたか。
- (5) (4)を代表する武士で、鎌倉幕府を倒すのに功績のあった人物を1人あげよ。
- (6) 幕府にそむいて、京都の六波羅探題を攻めた有力な御家人は誰か。
- (7) (5)や(6)などを味方につけて、1333年に鎌倉幕府を倒した天皇は誰か。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)

【】 室町時代

【】 建武の新政と室町幕府の成立

[要点：建武の新政]

1333年に鎌倉幕府をほろぼした後、後醍醐天皇は建武の新政を始めた。しかし、貴族(公家)を重視する政策をとったため武士の不満が高まった。また、税の軽減は行われず、戦乱による苦しみを考えずに宮殿の造営を考えるような政治の失敗もあいついだ。「このごろ都ではやっているものは、夜襲、強盗、にせの天皇の命令。…」という二条河原落書は、建武の新政による混乱を痛烈に批判したものである。

※出題頻度「後醍醐天皇◎」「建武の新政◎」「貴族を重視する政策をとったため武士の不満が高まった○」「二条河原落書△」

[問題 24]

次の文章中の①～④に適語を入れよ。

1333年に鎌倉幕府をほろぼした後、(①)天皇は(②)の新政を始めた。しかし、(③)を重視する政策をとったため武士の不満が高まった。また、税の軽減は行われず、戦乱による苦しみを考えずに宮殿の造営を考えるような政治の失敗もあいついだ。「このごろ都ではやっているものは、夜襲、強盗、にせの天皇の命令。…」という(④)落書は、(②)の新政による混乱を痛烈に批判したものである。

①
②
③
④

[問題 25]

次の各問いに答えよ。

- (1) 鎌倉幕府をたおす中心になった天皇は誰か。
- (2) (1)の天皇の行った政治を何というか。
- (3) 「このごろ都ではやっているものは、夜襲、強盗、にせの天皇の命令。…」という政治や世の中の混乱を痛烈に批判した落書は何か。
- (4) (2)が2年ほどで失敗することになった理由を、「貴族」「不満」という語句を使って簡単に説明せよ。

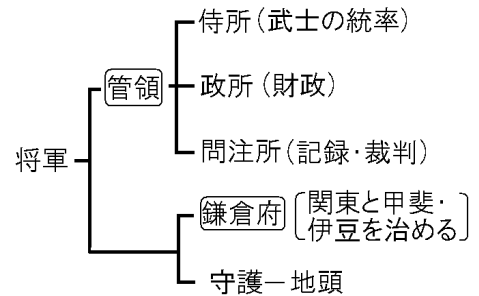
(1)
(2)
(3)
(4)

[要点：足利尊氏の挙兵・室町幕府・南北朝の動乱]

建武の新政に対する武家の不満が高まり、足利尊氏が武家の政治の復活を呼びかけ兵をあげると、新政は2年ほどでくずれた。足利尊氏は京都に新たに天皇を立てた。これを北朝という。後醍醐天皇は吉野(奈良県)に逃れたが、これを南朝という。足利尊氏は1338年に、北朝によって征夷大將軍に任命されて、京都に室町幕府を開いたが、幕府の支配力は弱く、1392年に第3代將軍足利義満が南北朝を統一させるまでの約60年間、南北朝の動乱が続いた。



室町幕府において、管領は將軍を補佐する役職で、侍所 (武士の統率)・政所 (財政)・問注所 (記録・裁判)を統括した。鎌倉府は、関東の地域を支配するための地方機関としておかれた。南北朝の動乱の中で、守



護は国内の武士を家来にしていき、その国全体を支配する守護大名に成長していった。

※出題頻度「足利尊氏◎」「北朝△」「征夷大將軍△」「室町幕府△」「南朝△」「吉野○」「南北朝時代○」「守護大名○」「足利義満○」「管領◎」「侍所△」「政所△」「問注所△」「鎌倉府○」

[問題26]

次の文章中の①～⑪に適語を入れよ。

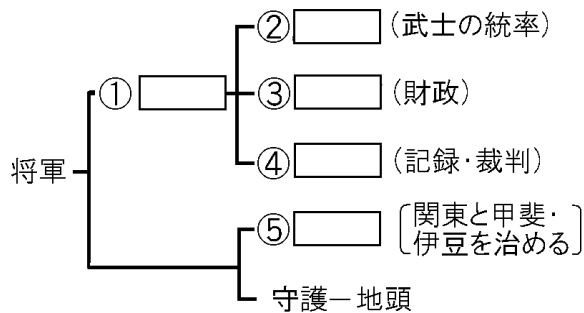
建武の新政に対する武家の不満が高まり、(①)が武家の政治の復活を呼びかけ兵をあげると、新政は2年ほどでくずれた。(①)は京都に新たに天皇を立てた。これを(②)朝という。後醍醐天皇は(③)(奈良県)に逃れたが、これを(④)朝という。(①)は1338年に、(②)朝によって(⑤)に任命されて、京都に(⑥)幕府を開いたが、幕府の支配力は弱く、1392年に第3代將軍(⑦)が(⑧)を統一させるまでの約60年間、(⑧)の動乱が続いた。(⑥)幕府において、(⑨)は將軍を補佐する役職で、侍所(武士の統率)・政所(財政)・問注所(記録・裁判)を統括した。(⑩)は、関東の地域を支配するための地方機関としておかれた。(⑧)の動乱の中で、守護は国内の武士を家来にしていき、その国全体を支配する(⑪)に成長していった。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪

[問題27]

次の各問いに答えよ。

- (1) 建武の新政に対して武士の不満が高まったが、武士の政治の復活を呼びかけて兵を挙げた中心人物は誰か。
- (2) ①(1)の人物にそむかれた後醍醐天皇はどこに逃げたか。②また、それは現在の何県か。
- (3) (1)の人物は、京都に新しい天皇をたてたが、この朝廷を何というか。
- (4) (1)の人物は、(3)から①何に任命されて、②何という幕府を開いたか。
- (5) 建武の新政が失敗に終わった後、約 60 年間戦乱が続いた。この戦乱の時代を何というか。
- (6) (5)の争乱の中で、守護は次第に一国を支配する領主に成長していった。このような守護を何というか。
- (7) (5)の争乱を終わらせた第3代将軍は誰か。
- (8) 次の図は(4)②のしくみを表している。①～⑤にあてはまる語句を書け。



(1)
(2)①
②
(3)
(4)①
②
(5)
(6)
(7)
(8)①
②
③
④
⑤

【】東アジアとの交流

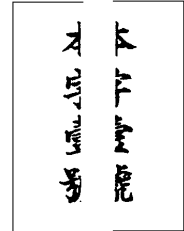
[要点：足利義満と日明貿易]

1368年、中国では漢民族が元を倒して明を建国した。明は倭寇という海賊のとりしまりを日本に求めてきたが、日本国内は南北朝動乱の末期で、これに対応できなかった。1392年になって第3代将軍足利義満は南北朝の統一を達成した。義満は、倭寇の取りしまりを約束し、さらに日本国王として明の皇帝に従う朝貢という形式をとって、1404年に日明貿易(勘合貿易)を始めた。このような形式をとってまで、義満が日明貿易を行ったのは、その利益が非常に大きかったためである。貿易船には、正式な貿易船と倭寇を区別するために勘合という合札をもたせた。「本字勘合」など書いた札を2つに分け、片方を勘合船がもち、片方を明の役所でもっていて、2つの割札がきちんと重なるかどうかで、正式の貿易船と倭寇を区別した。日本からの輸出品は銅、刀、硫黄、漆器などで、日本の輸入品は銅銭、生糸、絹織物、書画、陶磁器などであった。日明貿易がはじまると倭寇の活動はおさまった。



足利義満

(勘合)



※出題頻度「倭寇○」「明○」「足利義満○」「日明貿易○」「勘合◎」「倭寇と正式な貿易船を区別するため◎」「輸出品は銅銭など○」「輸出品は銅など△」

[問題28]

次の文章中の①～⑧に適語を入れよ。

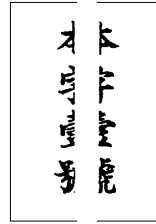
1368年、中国では漢民族が元を倒して(①)を建国した。(①)は(②)という海賊のとりしまりを日本に求めてきたが、日本国内は南北朝動乱の末期で、これに対応できなかった。1392年になって第3代将軍(③)は南北朝の統一を達成した。(③)は、(②)の取りしまりを約束し、さらに日本国王として(①)の皇帝に従う朝貢という形式をとって、1404年に(④)貿易を始めた。このような形式をとってまで、(③)が(④)貿易を行ったのは、その利益が非常に大きかったためである。貿易船には、正式な貿易船と(②)を(⑤)するために(⑥)という合札をもたせた。「本字(⑥)」など書いた札を2つに分け、片方を(⑥)船がもち、片方を(①)の役所でもっていて、2つの割札がきちんと重なるかどうかで、正式の貿易船と(②)を(⑤)した。日本からの輸出品は(⑦)、刀、硫黄、漆器などで、日本の輸入品は(⑧)、生糸、絹織物、書画、陶磁器などであった。(④)貿易がはじまると(②)の活動はおさまった。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

[問題29]

次の各問いに答えよ。

- (1) 1368年、中国では漢民族が元を倒して何という国を建国したか。
- (2) 北九州や瀬戸内の武士などの中には、朝鮮半島や中国へ行き、貿易をおこなうだけでなく、ときには海賊となり、米などをうばい取っていた人々がいた。この人々を何というか。
- (3) (1)の国との間で貿易が始まったが、この貿易は何とよばれたか。
- (4) (3)の貿易で使われた右図のような合い札を何というか。
- (5) (4)の合い札が用いられたのはなぜか、説明せよ。
- (6) (3)の貿易を始めた将軍は誰か。
- (7) (3)の貿易の主な輸入品は何か。1つあげよ。



(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)

[要点：朝鮮・琉球王国・アイヌ民族]

14世紀末、^{りせいけい}李成桂が^{こうらい}高麗を倒して^{ちょうせん}朝鮮国を建国した。朝鮮では、右図のような^{ハングル}ハングルという文字をつくるなど、独自の文化が発展した。

바 이 히 모

朝鮮も、日本に倭寇の取りしまりを求め、さらに貿易を求めてきたので、^{あしかがよしみつ}足利義満は^{にっちょう}日朝貿易を始めた。日朝貿易では、日本の各地の守護大名などが貿易船を^{はげん}派遣して綿織物や仏教の経典を輸入した。

^{おきなわ}沖縄では、15世紀はじめに^{しょうし}尚氏が^{りゅうきゅう}琉球王国を建て首都の^{しゅり}首里に首里城を築き、明、日本、朝鮮、東南アジア各地に進出して^{なかつぎぼうえき}中継貿易を行った。中継貿易とは、おもに他国からの輸入品を別の国へ輸出する貿易の形態である。

^{えぞち}蝦夷地(北海道)では、アイヌ民族が13世紀から狩りや漁、交易を行っていた。14世紀になって津軽(青森県)の^{とさみなと}十三湊に^{こんきょち}根拠地を置く豪族の^{あんどうし}安藤氏がアイヌの人々との交易を行うようになり、さらに15世紀になると、蝦夷地南部に本州の人々(和人)が^{わじん}館を築き進出していった。交易がさかんになるにつれて、取引をめぐるアイヌの人々は^{やかた}圧迫を受けるようになり、15世紀半ばに、首長の^{ほうき}コシヤマインを中心とした大きなアイヌ民族の蜂起が起きた。しかし和人勢力はこの戦いに勝利し、支配をさらに広げていった。

※出題頻度「李成桂△」「朝鮮国○」「ハングル○」「日朝貿易△」「尚氏△」「琉球王国◎」「首里△」「中継貿易○」「アイヌ民族○」「コシヤマイン△」

[問題 30]

次の文章中の①～⑨に適語を入れよ。

14 世紀末、(①)(人物名)が高麗を倒して(②)国を建国した。(②)国では、右図のような(③)
이라는文字をつくるなど、独自の文化が発展した。朝鮮も、日本に倭寇の取りしまりを求め、さらに貿易を求めてきたので、足利義満は(④)貿易を始めた。(④)貿易では、日本の各地の守護大名などが貿易船を派遣して綿織物や仏教の経典を輸入した。

바 이 히 모

沖縄では、15 世紀はじめに(⑤)氏が(⑥)王国を建て首都の首里に首里城を築き、明、日本、朝鮮、東南アジア各地に進出して(⑦)貿易を行った。(⑦)貿易とは、おもに他国からの輸入品を別の国へ輸出する貿易の形態である。

蝦夷地(北海道)では、(⑧)民族が 13 世紀から狩りや漁、交易を行っていた。14 世紀になって津軽(青森県)の十三湊に根拠地を置く豪族の安藤氏が(⑧)の人々との交易を行うようになり、さらに 15 世紀になると、蝦夷地南部に本州の人々(和人)が館を築き進出していった。交易がさかんになるにつれて、取引をめぐって(⑧)の人々は圧迫を受けるようになり、15 世紀半ばに、首長の(⑨)を中心とした大きな(⑧)民族の蜂起が起きた。しかし和人勢力はこの戦いに勝利し、支配をさらに広げていった。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨

[問題 31]

次の各問いに答えよ。

- (1) 朝鮮半島では、14 世紀末に高麗が滅亡し、何という国が建国されたか。
- (2) (1)の国を建国したのは誰か。
- (3) (1)の国で制定された右図のような **ㅂ 이 히 모** 文字を何というか。
- (4) 15 世紀はじめ、沖縄島を統一したのは何氏か。
- (5) (4)によってつくられた国の名前は何か。
- (6) (5)の首都はどこか。
- (7) 日本、明、朝鮮、東南アジアを相手に、(5)の国が行っていた貿易を何というか。
- (8) 蝦夷地に古くから暮らしていた人々は何民族か。
- (9) 15 世紀半ばに、本州の和人の進出に圧迫を受けた(8)の民族が蜂起したが、そのときの(8)の指導者である首長は誰か。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)

【】 民衆の成長・応仁の乱と戦国大名

[要点：農業・商工業の発達]

室町時代、農業では、鎌倉時代に始まった二毛作(にもうさく同じ土地で1年に2種類の作物を作る農業)がさらに広がった。田畑の耕作に牛馬を、かんがいに水車を、肥料に牛馬のふんや堆肥たいひを使うようになり、農業の生産性が向上した。また、麻やくわ、あい、茶などの商品作物の栽培が広がった。

室町時代、商業もさかんになり、定期市ていきいちが広く各地に生まれ、開かれるれる日数も増えた。取引には、中国から輸入された宋銭そうせんや明銭みんせんが使われた。これにともなって、運送業もさかんになり、馬借ばしゃく(馬の背に荷物を積んで荷物を運ぶ業者)、問とい(港の運送業・倉庫業者)などの運送業者が活躍した。交通の要所には、通行税をとるために幕府や寺社が関所せきしょを設けた。金融業もさかんになり、京都や奈良では、土倉どそうとよばれた質屋のほか、酒屋も金貸しを営んだ。土倉や酒屋、商人や手工業者は、同業者ごとに座ざとよばれる団体をつくり、公家や寺社に営業税を納めるかわりに、営業を独占する権利を認めてもらった。

都市も発達した。応仁の乱から復興ふっこうした京都では、町衆ちょうしゅうと呼ばれる裕福な商工業者によって都市の政治が行われ、祇園祭ぎおんまつりも盛大にもよおされた。また、日明貿易や日朝貿易で栄えた博多はかたや堺さかいでも、自治が行われた。

※出題頻度「二毛作○」「定期市○」「宋銭や明銭△」「馬借◎」「問○」「関所△」

「土倉・酒屋◎」「座◎」「町衆○」「祇園祭△」

[問題32]

次の文章中の①～⑪に適語を入れよ。

室町時代、農業では、鎌倉時代に始まった(①)(同じ土地で1年に2種類の作物を作る農業)がさらに広がった。田畑の耕作に牛馬を、かんがいに(②)を、肥料に牛馬のふんや堆肥を使うようになり、農業の生産性が向上した。また、麻やくわ、あい、茶などの商品作物の栽培が広がった。

室町時代、商業もさかんになり、(③)市が広く各地に生まれ、開かれるれる日数も増えた。取引には、中国から輸入された宋銭や明銭が使われた。これにともなって、運送業もさかんになり、(④)(馬の背に荷物を積んで荷物を運ぶ業者)、(⑤)(港の運送業・倉庫業者)などの運送業者が活躍した。交通の要所には、通行税をとるために幕府や寺社が(⑥)を設けた。金融業もさかんになり、京都や奈良では、(⑦)とよばれた質屋のほか、酒屋も金貸しを営んだ。(⑦)や酒屋、商人や手工業者は、同業者ごとに(⑧)とよばれる団体をつくり、公家や寺社に営業税を納めるかわりに、営業を独占する権利を認めもらった。

都市も発達した。応仁の乱から復興した京都では、(⑨)衆と呼ばれる裕福な商工業者によって都市の政治が行われ、(⑩)祭も盛大にもよおされた。また、日明貿易や日朝貿易で栄えた(⑪)や堺でも、自治が行われた。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪

[問題33]

次の各問いに答えよ。

- (1) 室町時代になると、同じ土地で1年に2種類の作物を作る農業が広まったが、このような農業を何というか。
- (2) 交通の要地などで開かれるようになった市場を何というか。
- (3) 室町時代、馬の背に荷物を積んで運ぶ運送業者があらわれた。この運送業者を何というか。
- (4) 港町に倉庫をかまえ、年貢などの輸送・保管を行った運送業者を何というか。
- (5) 朝廷、寺社などが通行料を取るために各地に設けたものは何か。
- (6) 金融業を営んだ質屋は何と呼ばれたか。
- (7) 取引に使われたお金にはどのようなものがあったか。2つあげよ。
- (8) 商工業者は同業者ごとに何という組合を作ったか。
- (9) 京都などでは自治が行われたが、その中心となった有力商人を何というか。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)

[要点：村の自治と土一揆]

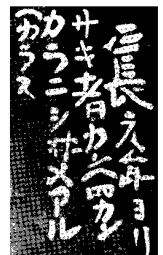
室町時代、農村では惣とよばれる自治組織が作られ、^{よりあい}寄合で、農業用水路の建設や管理、燃料や飼料をとる森林の利用や管理などについて、村のおきてを定めた。団結を固めた農民は^{しりょう}荘園領主に対抗するようになり、不法をはたらく^{しりょうかん}荘官をやめさせるよう荘園領主に要求したり、不作のときには年貢を減らすように要求し、認められないときには、全員が耕作をやめて逃げるなど、実力行使によって要求を認めさせたりした。

このような農民の力を、衝撃的な形で見せつけたのが、1428年の

正長の土一揆であった。(人よにや(1428)つく土一揆)

8月に、まず近江の運送業者の馬借が借金の帳消しを要求して立ち上がり、これに刺激されて、京都近郊の惣村でも借金の帳消しを要求して一揆を起し、^{さかや}酒屋や^{どそう}土倉などの金貸しをおそって借金の^{しょうもん}証文を焼き捨てるなどした。このような一揆を^{つちいっき}土一揆という。この後、徳政を要求する土一揆が、京都やその周辺でひんぱんに起こるようになり、幕府もこれにおされ

(正長元年以前の借金は神戸四か郷では帳消しにする)



て徳政令を乱発するようになった。

※出題頻度「惣◎」「土一揆○」「正長の土一揆○」「借金の帳消し○」「酒屋や土倉をおそった△」「徳政令△」

[問題34]

次の文章中の①～⑥に適語を入れよ。

室町時代、農村では(①)とよばれる自治組織が作られ、寄合で、農業用水路の建設や管理、燃料や飼料をとる森林の利用や管理などについて、村のおきてを定めた。団結を固めた農民は荘園領主に対抗するようになり、不法をはたらく荘官をやめさせるよう荘園領主に要求したり、不作のときには年貢を減らすように要求し、認められないときには、全員が耕作をやめて逃げるなど、実力行使によって要求を認めさせたりした。

このような農民の力を、衝撃的な形で見せつけたのが、1428年の(②)一揆であった。8月に、まず近江の運送業者の馬借が(③)の帳消しを要求して立ち上がり、これに刺激されて、京都近郊の(①)村でも(③)の帳消しを要求して一揆を起し、酒屋や(④)などの金貸しをおそって(③)の証文を焼き捨てるなどした。このような一揆を(⑤)という。その後、(⑥)政を要求する(⑤)が、京都やその周辺でひんぱんに起こるようになり、幕府もこれにおされて(⑥)政令を乱発するようになった。

①
②
③
④
⑤
⑥

[問題35]

次の各問いに答えよ。

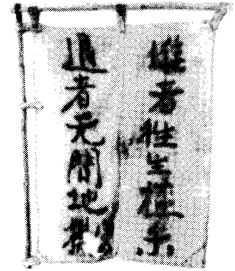
- (1) 室町時代、村の自治が発達したが、村ごとにつくられた自治的な組織を何というか。
- (2) (1)を中心に団結を固めた農民が、年貢を減らす交渉をしたり、金融業者をおそったりする一揆をおこした。このような一揆を何というか。
- (3) 近江の馬借や京都の農民が 1428 年におこした(2)は何か。
- (4) (2)を起こした農民などが要求したことは何か。「借金の〇〇」という形で答えよ。

(1)
(2)
(3)
(4)

[要点：応仁の乱・国一揆と一向一揆]

強い権力をふるった第6代将軍足利義教あしかがよしのりの死後、幕府しゅごだいみょうでは守護大名間の勢力争いが起こった。1467年、第8代将軍足利義政よしまさのとき、将軍のあとつぎ争いと、細川氏ほそかわしと山名氏やまなしの対立から、応仁の乱おうにんが起こった。(応仁の乱人よむな(1467)しく死んでいく) 戦乱は多くの守護大名をまきこんで11年も続き、京都から全国に広がった。

応仁の乱後の1485年、山城やましろ(京都府)南部の村は、地侍じぎわらいを中心にまとまりを強め、両派に分かれて争っていた守護大名の畠山氏はたけやまを追い出し、自治による政治を8年間続けた。この一揆を、山城国やましろのくに一揆いっきという。



「進まば往生極楽、退かば無間地獄」と書かれている。

また、各地で浄土真宗じょうどしんしゅう(一向宗いっこうしゅう)の信仰しんこうで固く結ば

れた地侍と農民が一向一揆いっこういっきを起し、加賀かが(石川県)では、1488年、守護大名を攻めほろぼし、以降100年間自治を行った(加賀の一向一揆)。

※出題頻度「足利義政○」「山名氏と細川氏の対立○」「1467年△」「応仁の乱◎」
「山城国一揆○」「一向一揆○」「加賀の一向一揆○」

[問題 36]

次の文章中の①～⑥に適語を入れよ。

強い権力をふるった第6代将軍足利義教の死後、幕府では守護大名間の勢力争いが起こった。(①)年、第8代将軍(②)のとき、将軍のあとつぎ争いと、細川氏と(③)氏の対立から、(④)の乱が起こった。戦乱は多くの守護大名をまきこんで11年も続き、京都から全国に広がった。(④)の乱後の1485年、山城(京都府)南部の村は、地侍を中心にまとまりを強め、両派に分かれて争っていた守護大名の畠山氏を追い出し、自治による政治を8年間続けた。この一揆を(⑤)という。また、各地で浄土真宗(一向宗)の信仰で固く結ばれた地侍と農民が(⑥)を起し、加賀(石川県)では、1488年、守護大名を攻めほろぼし、以降100年間自治を行った(加賀の(⑥))。

①
②
③
④
⑤
⑥

[問題 37]

次の各問いに答えよ。

- (1) 15 世紀後半，守護大名間の権力争いに将軍の相続争いが結びついて，11 年間も京都での争いが続いた。この争いを何というか。
- (2) (1)に「守護大名間の権力争い」とあるが，対立した有力な守護大名は何氏と何氏か。
- (3) (1)の時期の室町幕府の将軍を答えよ。
- (4) 1485 年，京都南部の村々は，地侍を中心としてまとまりを強めて守護大名の畠山氏を追い出して 8 年間自治を行った。この事件を何というか。
- (5) 15 世紀後半，加賀の一向宗の信徒が守護を攻め滅ぼし，約 100 年間自治を続け，「百姓の持ちたる国」とよばれた。この事件を何というか。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

[要点：下剋上と戦国大名の登場]

応仁おうにんの乱以降，実力のある者が力をのばして上の身分の者に打ち勝つげこくじょう下剋上ふうちょうの風潮が広がった。下剋上で守護大名の地位をうばって実権をにぎったり，守護大名が成長したりして，戦国大名せんごくだいみょうが各地に登場した。応仁の乱以後の約 100 年間は戦国時代せんごくじだいという。戦国大名は，領国りょうごく支配のための分国法ぶんこくほうという独自の法律を定めた。また，武士や商工業者を集めて城下町じょうかまちをつくった。さらに，農業用水路の建設や鉱山の開発などにも力を注いだ。石見銀山いわみぎんざん(島根県)は戦国大名の保護のもとで博多の商人によって開発され，産出された大量の銀は海外に輸出され世界的に大きな影響をあたえた。

※出題頻度「実力のある者が，力をのばして上の身分の者に打ち勝つ○」「下剋上◎」

「戦国大名○」「戦国時代○」「分国法◎」「城下町○」「石見銀山△」

[問題 38]

次の文章中の①～④に適語を入れよ。

応仁の乱以降、実力のある者が力をのばして上の身分の者に打ち勝つ(①)の風潮が広がった。(①)で守護大名の地位をうばって実権をにぎったり、守護大名が成長したりして、(②)大名が各地に登場した。応仁の乱以後の約 100 年間に(②)時代という。(②)大名は、領国支配のための(③)法という独自の法律を定めた。また、武士や商工業者を集めて(④)町をつくった。さらに、農業用水路の建設や鉱山の開発などにも力を注いだ。石見銀山(島根県)は(②)大名の保護のもとで博多の商人によって開発され、産出された大量の銀は海外に輸出され世界的に大きな影響をあたえた。

①
②
③
④

[問題 39]

次の各問いに答えよ。

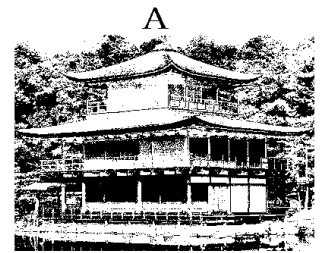
- (1) 応仁の乱後、戦乱は全国に広がり約 100 年も続いた。この戦乱の時代を何というか。
- (2) (1)の時代、大名の家来が実力をのばして大名の地位を奪うことも起こった。このように、下の身分の者が上の者を倒すことを何というか。
- (3) (1)の時代、実力で領国を支配するようになった大名を何というか。
- (4) (3)が領国統治のために制定した法令を何というか。
- (5) (1)の時代、(3)が自分の城の周囲に家臣や商工業者を集めて町を発達させた。このような町を何というか。
- (6) (3)の保護のもとで博多の商人によって開発された現在の島根県にあった銀山は何か。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)

【】室町時代の文化

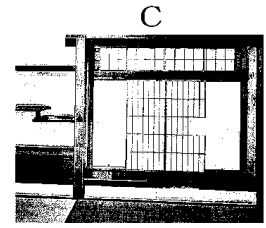
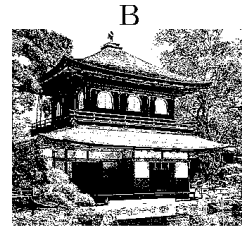
[要点：北山文化と東山文化]

金閣(図A)は、第3代将軍の足利義満が京都の北山に建てた別荘で、金箔を用いた豪華絢爛なつくりで、第一層は寝殿造になっている。金閣には、公家の文化と武家の文化との融合という北山文化の特色がよく表されている。



応仁の乱後、第8代将軍の足利義政は京都の東山に東山山荘とも呼ばれる銀閣(図B)を建て風流な生活を楽しんだ。

銀閣と同じ敷地内にある東求堂同仁齋に見られる書院造(図C)は、住宅を障子などで間仕切りして数室にわけ、畳を敷き、明障子や床の間などをもっているところに特徴がある。書院造は、現在の和風建築のもとになっているといわれる。この義政の時代の、武家をにない手とする簡素で気品のある文化を東山文化という。



※出題頻度「足利義満○」「金閣◎」「寝殿造△」「公家の文化と武家の文化との融合○」「北山文化○」「足利義政○」「銀閣○」「書院造◎」「東山文化○」

[問題40]

次の文章中の①～⑧に適語を入れよ。

(①)(図 A)は、第3代将軍の (②)が京都の(③)に建てた別荘で、金箔を用いた豪華絢爛なつくりで、第一層は寝殿造になっている。(①)には、公家の文化と(④)の文化との融合という(③)文化の特色がよく表されている。

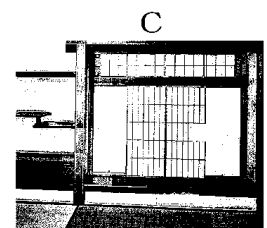
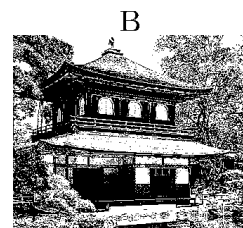


①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

応仁の乱後、第8代将軍の(⑤)は京都の(⑥)に(⑥)山荘とも呼ばれる(⑦)(図 B)を建て風流な生活を楽しんだ。

(⑦)と同じ敷地内にある東求堂同仁齋に見られる(⑧)造(図

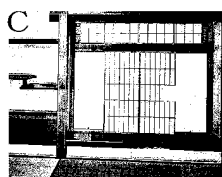
C)は、住宅を障子などで間仕切りして数室にわけ、畳を敷き、明障子や床の間などをもっているところに特徴がある。(⑧)造は、現在の和風建築のもとになっているといわれる。この義政の時代の、武家をにない手とする簡素で気品のある文化を(⑥)文化という。



[問題41]

次の各問いに答えよ。

- (1) 右図 A の建築物は何か。
- (2) (1)を建てた将軍の名前を答えよ。
- (3) (1)の建築物の第一層にとり入れられた、平安時代に成立した貴族の住宅の様式を何というか。
- (4) (2)の時代の室町文化を特に何文化と
いうか。
- (5) (4)の文化の特色を「公家」「武家」の
語句を使って説明せよ。
- (6) 右図 B の建物の名を書け。
- (7) (6)を建てた将軍の名前を答えよ。
- (8) (7)の時代の室町文化を特に何文化と
いうか。
- (9) (6)と同じ敷地内にある東求堂同仁齋に見られる C のような
様式を何というか。



(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)

[要点：能・水墨画など]

平安時代から神社の祭りなどのとき、農民によって行われてきた田楽^{でんがく}や猿楽^{さるがく}は、足利義満^{あしかがよしみつ}の保護^{かんあみ}を受けた観阿弥^{くわんあみ}・世阿弥^{ぜあみ}親子^{のう}によって能^{のう}として大成された。能の合間には、狂言^{きやうげん}という喜劇^{きげき}が演じられた。

右図のような、和紙^{すみ}に墨^{のうたん}一色の濃淡^{すいぼくが}でえがく絵画^{えいがか}を水墨画^{すいぼくが}という。禅僧^{ぜんそう}の雪舟^{せつしゆ}が大成した。室町時代、民衆が楽しむ文化^{いっすんぼうし}が生まれた。「一寸法師



」、「浦島太郎^{うらしまたろう}」、「ものぐさ太郎^{ものぐさたろう}」などの御伽草子^{おとぎぞうし}とよばれる絵本^{えほん}がつくられ、人々を楽しませた。また、和歌の上の句と下の句を、次々に別の人がよみあう連歌^{れんが}も流行した。

戦国大名の上杉氏に保護されてきた足利学校^{あしかが}(栃木県)には、広く日本国内から人材が集まり、儒学を学んだが、そこでさまざまな情報を交換した人々は、その知識を各地に伝えた。

※出題頻度「能◎」「観阿弥・世阿弥○」「狂言○」「水墨画○」「雪舟◎」「御伽草子○」「連歌△」「足利学校△」

[問題42]

次の文章中の①～⑧に適語を入れよ。

平安時代から神社の祭りなどのとき、農民によって行われてきた田楽や猿楽は、足利義満の保護を受けた観阿弥・(①)親子によって(②)として大成された。(②)の合間には、(③)という喜劇が演じられた。右図のような、和紙に墨一色の濃淡でえがく絵画を(④)画という。禅僧の(⑤)が大成した。



室町時代、民衆が楽しむ文化が生まれた。「一寸法師」,「浦島太郎」,「ものぐさ太郎」などの(⑥)とよばれる絵本がつくられ、人々を楽しませた。また、和歌の上の句と下の句を、次々に別の人がよみあう(⑦)も流行した。戦国大名の上杉氏に保護されてきた(⑧)学校(栃木県)には、広く日本国内から人材が集まり、儒学を学んだが、そこでさまざまな情報を交換した人々は、その知識を各地に伝えた。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

[問題43]

次の各問いに答えよ。

- (1) 田楽や猿楽は、ある芸能に大成された。この芸能を何というか。
- (2) (1)を大成したのは誰か。2人あげよ。
- (3) (1)のあいまに演じられた喜劇は何か。
- (4) 和紙に墨一色の濃淡で描く右図のような絵画を何というか。
- (5) (4)を大成した人物は誰か。
- (6) 「浦島太郎」や「物臭太郎」などの話をもとにした絵本を何というか。
- (7) 和歌の上の句と下の句をつないでいく文学は何か。



(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)